

2025年(令和7年)11月24日(月)

「ほたるの里」再生へ

三島 NPO が草刈り・泥排除

湿地に土砂が堆積^{たいせき}し、雑草が生い茂ってしまっただけで、NPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)が14日、草刈りや枝切り、ホタルが飛び交う水、泥の排除、ごみ拾



①「ほたるの里」でホタルの水路(手前)周辺の雑草を刈り取る参加者
②「ほたるの里」の湿地で雑草を刈り取る参加者。奥が三島市立公園「楽寿園」川いずれも三島市泉町で



いなどの活動をした。作業には職場体験の中学生や地域貢献活動の加和太建設社員ら約20人が加わり、積年の汚れを一掃させた。

ほたるの里は、市立公園「楽寿園」の南隣、蓮沼川の上流部にある。湿地には楽寿園小浜池の水も流れこむ。2003年に完成し、16年にホタル水路の改修や土留めの設置、展

望デッキの修繕などを行ったが、その後、維持管理がおろそかになっていた。

活動に対しては大成建設自然・歴史環境基金から60万円の助成金を得られた。今後、ホタルの鑑賞会やハナシヨウブの植栽、腐った土留めの修繕、ホタルの幼虫と餌になるカワニナの放流なども行う予定だ。

草刈りなどに汗を流した、ともに市立北中2年の児玉太郎さんと中村琉希^{りゅうき}さんは「枝を切ったりするのが大変だったけれど、地域のために働けることがすてき」と話し、加和太建設の井上佳香^{よしか}さん(26)は「地元の人から『きれいになったらうれしい』と声を掛けられ、やりがいを感じた」と話した。

GW三島の渡辺豊博専務理事は「再びホタルが飛び交う場所にしたいと、ボランティアが集まって活動してくれたのが心強い」と話した。

【石川宏】